

## はじめに

人材こそ日本が世界に誇る最大の資源である。

経済のグローバル化が急速に進展し、中国をはじめとしたアジア諸国が台頭している。一方、国内においては、人口減少や少子高齢化が急速に進行し、経済の潜在的成長力が低下している。こうした中で、我が国の国際競争力を維持し、国際社会における存在感を高めていくためには、我が国最大の資源である人材の持つ力を最大限活用することが不可欠である。

科学技術イノベーションの推進もまた「人」抜きでは成り立たない。新しい知識・価値を創出し、体系化し、伝え、更なる新しい知識・価値の創出につなげていく。得られた知識・価値を発展させ、又は活用し、実際に社会に役立てていく。これらは全て「人」が担っている。

人材の持つ能力、更には可能性を最大限に引き出し、科学技術イノベーションを推進する。常に新しいことに挑戦し、世界に先駆けて知識や価値を創出する。そして、そこから創り出される科学技術イノベーションの画期的な成果が、日本全体を触発し、国民の挑戦心を呼び起こす。こうした循環により、日本人一人ひとりが起業家（アントレプレナー）の気概を持って、経済成長の加速、国際社会への貢献、我が国を取り巻く様々な制約や課題の解決にチャレンジしていく。これが今、我が国に強く求められている。

諸外国を見れば、各国とも人材力の強化に力を入れている。

米国はSTEM（Science, Technology, Engineering and Mathematics：科学、技術、工学及び数学）教育に係る戦略を策定し、将来の科学技術イノベーションを担う人材の育成に力を入れている。また、国の競争力の更なる強化に向け、STEM分野における女性の活躍を強く促進している。

欧州は、研究者、知識及び技術が自由に循環できる研究者の単一市場を形成することにより、研究領域や国を越えた研究者の流動、海外からの研究者の呼び込みを促し、それを科学技術イノベーションの駆動力にしようとしている。

また、中国やインドは、豊富な人的資源を背景に学生・研究者を積極的に海外に派遣し、世界トップクラスの研究人材に育て上げるとともに、このような人材を還流させ活用し、自国の科学技術イノベーションを推進している。

一方、シンガポールは外国から優秀な人材を呼び込み、その力により自国の科学技術イノベーションを進めている。

世界はまさに優秀な人材の育成と国際獲得競争の時代となっている。

このような状況を踏まえ、今年度の白書では、科学技術イノベーションの担い手である「人材」に着目し、国内外の社会経済の状況変化や人材に関する現状等を踏まえ、人材力強化の基本的方向性を示すとともに、その実現に向けて、現在の取組や課題を分析・整理し、今後の具体的取組の方向性を明らかにする。